住設・供給機器 新技術

山岸産業
非常時対策で普及拡大
5キロワット小型LPG発電機

東日本大震災での経験を生かして製造された5キロワット級のLPガス・ガソリンハイブリッド発電機が、LPガス事業者の普及促進活動もあり、徐々に設置先を増やしている。最大の売りは、主流品の中ではこれまでになかった5キロワット級という出力規模。一般家庭の電力需要をちょうど賄える規模で、家庭だけでなく小規模事務所なども販促対象になる。LPガスは発電機の燃料として相性が良く、新たな需要創造につながると期待される。

製造は岩手県内のメーカーの山岸産業。販売元は自動車部品などの準メーカー（ファブレス）のリブ・ロック。3・11当時、津波被災した山岸産業に軽油発電機があったが、東日本全体が燃料油不足に陥るなか、軽油調達に大変苦労をした。そのときLPガスの復旧の早さや軒先在庫がある分散型エネルギーの強さを目の当たりにし、LPガスを主要燃料とする発電機の開発に着手。非常時には多様な燃料を使えるよう、比較的調達しやすいガソリンでも動かせるようにした。

この発電機にLPガス容器を接続する場合、事前に容器と調整器をLPガス事業者などが接続したうえで、ユーザーがその調整器と容器を接続する。LPガスは質量販売に該当するという。

稼動時のLPガス消費量は、50%負荷時で1時間当たり1・6キログラム。コントロールパネルには単相100ボルト用コンセント4個、単相3線式端子（200ボルト用）、直流用端子（DC12ボルト、8・3アンペア）を備える。さまざまな機器に対応できるようコンセントなども複数種類用意した。ガソリンタンクは25リットル。ガソリンはタンクに入れたままの保存が難しいので、LPガスを主に使うよう呼びかけていく。

5キロワット級のLPガス発電機は珍しい

熱交換器・送風機
アタゴ製作所
TEL〇七七・七六・四二一代

新ショールーム
Lグループ旗艦施設に

LIXILグループ（本社・東京、藤森義明社長）は、グループのLIXILと川島織物セルコンの西日本における旗艦ショールームを、大阪市のうめきた・グランフロント大阪タワーAの11・12階に8月オープンする。同ショールームの12階には、住生活・建築・デザインをテーマに文化活動を行うLIXILギャラリーを設置。1階にはLIXILグループの水まわり商品や建材、インテリア商品などを展示する。

商品選定・相談はもちろん、環境や省エネに配慮した商品の提案、住まいの手入れ方法など暮らしに役立つ情報を発信するなど、エンドユーザーとの双方向コミュニケーションの場を展開する。

さらに展示に取り組むだけでなく、住まい・暮らしの未来をすべての顧客とともに創造していく新たなかたちのショールームとなるようにする。

オープンしたほか、今後施設。電車での来場に利便性が高い好立地に加え、梅田エリアには住まいに関するショールームが多数集まっていることから、新たな情報発信拠点として今後多くの顧客が期待されている。

ウォーターネット
販売ノウハウを共有
東西でマンパワー研究会

水宅配事業のウォーターネット（本社・東京、や幹部が参加し、大いに盛り上がった。

対する覚悟まで話が及び、参加者全員が注目する発表となった。

参加した経営幹部の1人は「今日の話は水宅配事業だけでなく本業のガス機器販売にも通じる。チャンスがあればメンバ

日を予定。

新協会の募集内容は、正会員資格として独自ブランドを保有するブランドメーカー（FC本部など）、準会員はFC代理店など非ブランドメーカー、賛助会員は宅配水関

リンナイ
15%削減に挑戦
グループ挙げて節電推進

リンナイは今夏、最大使用電力の目標を昨年同様2010年比15%削減とした。環境省認定のエコ・ファースト企業として、グループの生産拠点を中心に17施設で節電目標の達成に取り組む。

具体的には、空調の28度C設定、蛍光灯の同20%削減を達成し照度調整、OA機器の省エネ設定、スーパークールビズの実施など17項目の節電対策を重点的に推し進める。必要に応じて節電パトロールも行う。

同社は昨夏、昨冬ともに節電に取り組み、

組織改革

矢崎エナジーシステム（6月21日）
環境システム事業部に計装事業部と営業統括部を新設する

人事

アイシン精機（6月18日）
副社長（取締役・専務役員）三矢誠▽取締役（専務役員）石川敏行
矢崎総業（6月21日）
監査役兼矢崎エナジーシステム監査役（常務執行役員経営管理室長）関根滝司▽ジョットツーリスト社長（監査役兼矢崎エナジーシステム監査役）高山寿夫▽矢崎エナジーシステム取締役副社長（矢崎総業